

突発性発疹

① 突発性発疹はヒトヘルペスウイルスによる感染症です。生後 4 か月ごろから 1 歳ごろまでの乳幼児に発生する代表的な疾患です。

② 病原体は、ヒトヘルペスウイルス 6 型 または 7 型です。

③ 感染経路はよくわかっていません。唾液からの経口感染の可能性が最も高いと推測されています。

④ 潜伏期間は 10 日程度です。症状は 38～40℃前後の高熱が 3 日程度続いたあとに下がり、ほぼ同時におなかや背中を中心に大小不規則な赤い発疹が出て、全身に広がります。かゆみなどを伴うことはありません。発熱時に、軽度の咳や下痢を伴うことがあります。突然の高熱と解熱前後の発疹は、突発性発疹の特徴です。

⑤ また、感染しても症状が現れない不顕性感染が 20～40%と報告されています。

⑥ 通常、一度かかると免疫ができますが、まれに 6 型と 7 型 2 種類のウイルスにそれぞれ感染して二度発症することがあります。

⑦ 特別な治療法はなく、症状に応じた対症療法が行われます。

⑧ 通常予後良好な疾患であり、特別な予防法や予防接種はありません。

⑨ 目黒区の保育園では診断がついて、体力が回復するまで登園を控えることになっています。